

第28期<2021.10.1~2022.9.30>活動報告

■ 1年間のまとめ

第28期については次の5つの課題を掲げて活動しました。

- 1) 各部会の活動により、歴史的建造物の保存・活用に対する所有者支援や建造物の文化財登録等を推進します。
 - 2) 見学会・講習会を開催し、古建築や再生建築の良さを市民等に普及・啓発します。
 - 3) 会員の相互交流を強め、併せて、国や地方行政機関を含む関連団体との連携を図ります。
 - 4) 財務活動を柱にNPO法人の運営能力や事務能力を高めます。
 - 5) 「京都市文化財マネージャー育成講座(建造物)」及び「京都府文化財支援コーディネーター養成講座」を事務局団体として開講します。
- 今期の特徴は一昨年度からの新型コロナウイルスの感染拡大のため会を含めて多様な市民活動が制限された事です。リアルな見学会や勉強会での集まりが制限されましたが、ZOOMでの会議などが一般化し、ZOOMでの意見交換にも慣れてきました。

会は4月から奥田家(分家)と史跡山科本願寺跡公園の管理事業を受託したため山科区に事務所を移転しました。活動拠点を持つことにより会の活動は新しい段階に突入しました。

■ 部会等の活動報告

(1) 利用相談部会+古材文化の会設計室

- ①利用相談部会は、古い建物の再生や古材の利活用などの相談に応じる部会で、現在14名の部会員で構成しています。利用相談の依頼に対して毎月の定例部会で協議し、「古材文化の会設計室」と共同して対応を行っています。
- ②2021年度 古材文化の会設計室 設計監理業務
 - ・昨年度～現在 泉大津市寺院 改修工事
 - ・昨年度～現在 京都市東山区旧邸宅(国登録文化財) 耐震修理工事
 - ・6月～9月 京都市北区旧住宅洋館(市指定・国登録文化財) 部分修理工事
- ③定例部会では、利用相談物件の管理を行いながら、それぞれの相談物件について意見を出し合い、担当者を選定して現地確認や相談者との面談など、適切な対応を検討しました。
- ④利用相談部会員を対象に、改修物件の現場見学会・完成見学会を実施しました。

(2) 企画部会

- ①企画部会は一般市民が気軽に参加できる企画を中心に実施しています。
- ②全国集会はコロナ禍のため28期も実施できませんでした。
- ③下京区のAotakeで「古材文化の会ふで文字じかん」を9回開催。
- ④10月1日上中区油橋詰町で「ぶんぶんカフェ」を会員2名が開業。
- ⑤12月5日下京区のまちセンで住まいの学校「しめ縄づくり」を開催。

- ⑥3月12日ぶんぶんカフェで「町家の日」のイベントを開催。
- ⑦4月1日理事会で会に寄附された古材や古建具の取扱は会の責任と決定。
- ⑧4月5日企画部会で理事会決定を受けて「古材ネット」（仮）を設置
- ⑨5月13日企画部会で古材ネットを早急に複数体制に移行すべきと決定。
- ⑩奥田家住宅・史跡山科本願寺跡公園管理業務を企画部会で担当と決定。
- ⑪6月19日藤田家住宅広場でヴォーリズ設計古建具のお披露目会を開催。
- ⑫8月6日 KOMO フェスタでぶんぶんカフェと古材ネットの活動報告。
- ⑬9月11日南区の解体予定の農家で「床の間を、ばらす」勉強会を開催。
- ⑭上記以外にも企画部会ではぶんぶんカフェ、山田家、古材ネット（仮）の活動支援、奥田家(分家)と公園の活用などに幅広く取り組んでいます。

(3) 見守る部会

- ① 見守る部会として正式に発足し、5年を経過しました。現在12件の建物を「見守るネット」に登録いただき、「修理」、「活用」、「継承」などそれぞれの抱える課題について、担当マネージャーを中心に対応を行っています。また、見守るネットに未登録の建物も、「大切にしたい建物リスト」に挙げて活用などの可能性を探る取り組みを行い、すそ野を広げるようにしています。
- ② 伏見区藤田家では、改修工事後のお披露目会を行い多くの方々にご来場いただきました。今後 カフェとして生まれ変わる予定です。
- ③下京区田中家では、京都市立芸大の「テーマ演習」の場として利用され、3年目を迎えました。OBを含めた学生グループも結成され、来年度の芸大の移転に向けて持続的な活用を検討しています。
- ④東近江市五箇荘の小泉家では、長期にわたる修繕工事を継続中です。小家蔵（水屋蔵）の修復と小家蔵周りの主屋下屋の屋根瓦の葺替え、小洋館隣のトイレ改修、主屋2階の建具改修、文庫蔵前の坪庭復旧工事をしました。
- ⑤ 南区長谷川家では、京都女子大学の1回生（60～70名）が3回に分かれて長谷川家を見学し、その後 長谷川家を活用するレポートをまとめました。歴史的な建造物を活用する魅力、課題を実際の空間に触れながら学ぶことができる貴重な場となっています。
- ⑥ 「見守るネット」の地域版の取り組みの一環として、伏見区醍醐地区と南丹市美山町北村地区での取り組みを行っています。醍醐地区では、地元在住の見守るマネージャーによる活用の取り組みである「山田家活用フォーラム」の活動サポートを行っています。山田家では朗読会などのイベントやレンタルスペースとして活用されています。美山町北村地区では、令和4年度に南丹市の委託で「現況調査業務」を行いました。令和5年度はその調査をベースに、改修時に役立つ「デザインガイド」づくりに向けた取り組みを、地元保存会の皆さんと進めていく予定です。

(4) 古材文化の会伝統建築保存・活用マネージャー会＝愛称 KOMO

- ① 毎月行っている定例会を継続して開催しています。今期はほぼオンライン

ンで行いましたが、多くの協力者のお陰で毎回 90 分程度の（プチ勉強会）も大変勉強になる内容ばかりでした。

② 「全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会」に運営委員として参加し、全国の他団体との交流や情報交換を行いました。10月13日と14日に秋田市内で、（第10回総会と第9回大会）を開催しました。また「近畿ブロック協議会」では2～3カ月に一度、2府4県の代表者並びに担当者で会合を継続しております。

③ コロナ禍で休講中だった「第12期京都市文化財マネージャー育成講座」も、年明けから再開し、3月26日に修了式を迎えることが出来ました。5月21日は醍醐山田家にて実測の実習を行い、7月9日には亀岡市にてまちあるきと勉強会をおこないました。新しいメンバーにも少しずつ KOMO の活動に興味を持ってもらっています。

④8月6日に本願寺山科別院多目的ホールにて「KOMO フェス 2022」を開催しました。4名のメンバーに活動の発表を頂いたあと、古材文化の会の各部会の活動報告などもおこないました。多くの皆様にご協力とご参加を頂き、深く感謝しております。

⑤ 定例会での報告内容やプチ勉強会の企画、講座のサポート活動、その他 KOMO の各プロジェクトをみまもるため、毎月第1木曜日に KOMO 部会を開催しています。現在8名の部会員で、様々な事案について相談し議決しています。

⑥有井代表率いる KOMO ライダーズクラブですが、4月23日～24日で三重県伊賀市や関宿を訪ねました。みえヘリテージ協議会の中浦氏の案内で、改修された建物の説明などもして頂きました。また6月4日～5日には和歌山県有田郡湯浅町に行き、和歌山県ヘリテージネットワーク協議会の中西氏、鈴木氏、田邊氏から、地域の歴史や町並み、保存活用に対する補助金などについて説明を受けました。

⑦池田さちよ氏率いる 古文書勉強会は、月に一度、日向会長を講師にお招きしておこなっています。お寺や古民家の江戸時代や明治期に記された工事記録書などを読み解いています。

⑧伊根町在住のメンバー、森田氏が中心となって作成した（歴史探訪ハンドブック 2020）が大変好調で、他府県のヘリテージマネージャーにも多く購入して頂いております。しかしこれに甘んじることなく、現在内容の見直しや追記をしている所で、来年か再来年には続編を販売予定です。

（5）歴史ある建物調査室

歴史ある建物調査室（歴調）では、第28期の活動計画として、「登録文化財や景観重要建造物の申請に関わる調書作成、また、市町村からの歴史的建造物に係る委託調査を行う」ということを掲げていました。

【登録文化財・その他調査関連】

①登録文化財等の調査については、28期は実施していません。

【京都を彩る建物や庭園制度関連】

① 第27期に引き続き、“京都を彩る建物や庭園（京彩）”制度における令和3年度認定候補建物調査として、9件の委託を受け調査に取り組みました。第27期も前期同様にコロナ禍において往訪調査の機会が遅れるなどの状況が見受けられたこともあり、今年8月に開催された今年度第1回目の審査会では、上記のうち6件が「認定」建物として位置づけられました。残り3件は、近く予定されている今年度第2回目の審査会にて諮られる予定です。

28期の認定調査は、8月より調査対象候補建物の照会をはじめ、調査班編成後、9月下旬より事前往訪を開始し、先行案件においては10月より調査に着手しています。

② 昨年9月より再開した第12期京都市文化財マネージャー育成講座に際して、演習・修了課題地を“京都を彩る建物や庭園”制度によって既に選定されている建物のなかから提示し、同制度による「認定」を視野に入れた調査・考察作業に取り組んでいただきました。これらの建物も修了報告書を基に、上記審査会において従来の認定調査建物と同様の扱いとなっています。

③ “京都を彩る建物や庭園（京彩）”制度に対する取り組みとしては、文化財マネージャーを対象に、同制度の調査への参加を促し、或いは制度の関りを深めるため、スキルアップ的な機会を実施いたしました。3月に伏見区羽束師の長谷川家を対象に、調査への関わり方の幅を広げるための勉強会、5月に伏見区醍醐の山田家を借りて、第12期京都市文化財マネージャー育成講座の期間中、コロナ禍実施できなかった野帳演習（ビギナーズ講座）の代替的な位置づけを含め、調査・考察における分野別のレクチャー（庭園考察、報告書添付写真等）をKOMO部会と協働でミニ講座的に実施いたしました。

また、認定調査以外のフェイズとして、この制度のアプローチ部分である、“「選定」のための推薦”活動を担う文化財マネージャーを増やすべく、9月に御所西エリアにおいて、まち歩きと組み合わせたトライアル的な講座を「ぶんぶんカフェ」と協働で実施いたしました。

（6）年輪年代学研究所

① 「年輪年代学研究所」は、使用部材の年輪年代法による年代測定や使用木材の樹種同定を行う研究所です。建築年代の不明な建造物の年代判定や木材同定について所有者等から委託を受けて調査をしています。

② 28期は、会への調査依頼はありませんでした。

（7）第12期京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）

① 新型コロナ禍のため延期していた「第12期京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」を再開し、2022年3月26日に修了式を迎えました。当初の受講者36名のうち、全科目を履修した26名が講座を修了し、優秀な修了課題をまとめた班に殊勲賞・敢闘賞・技能賞が授与されました。古材文化の会が講座の事務局を担当し、マネージャーの有志が講座の運営を支援しました。

(8) 京都府文化財支援コーディネーター養成講座

①京都府、京都府教育庁、一般社団法人京都府建築士会、特定非営利活動法人古材文化の会の四者からなる「京都府文化財支援コーディネーター養成実行委員会」の主催で、「第2期京都府文化財支援コーディネーター養成講座」を開催し、基礎と現地の両講座に参加し、修了した受講者は39名でした。

②令和3年度で京都府の事業は終了しましたが、令和元年度及び令和3年度に養成講座を修了した京都府文化財支援コーディネーターの資質の向上とコーディネーター同士の連携を強化することが必要です。